

サラウンドアンプ
Surround Amplifier

AA-132



INDEX

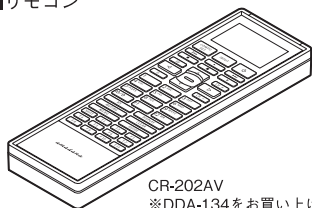
付属品	3
安全上のご注意	4・5
知っておきましょう	6
サラウンドセット (DDA-134) をご購入された場合の接続のしかた	7～12
各部の名前	13
リモコンの操作	16～18
基本操作	19
サラウンド再生の操作をする	20～22
再生のしかた	23・24
録音 (録画) のしかた	25
臨場感を楽しむ	26～29
便利な機能	30・31
故障かな？と思ったら	32
仕様	33
アフターサービス	34

REALFLEET

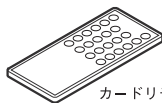
REALFLEET co., Ltd. m² Harajuku 5F, Jingumae 6-27-8,
Shibuya, Tokyo Japan 150-0001 tel: 03-5774-0947 fax: 03-5467-0431
info@amadana.com

付属品

■リモコン



CR-202AV
※DDA-134をお買い上げの方

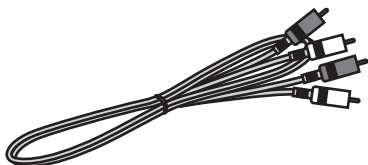


カードリモコン
※AA-132をお買い上げの方

付属リモコンについて

※DVDプレーヤー・サラウンドアンプ・スピーカーのサラウンドセットをご購入のお客様には専用のスーパーマルチリモコン (CR-202AV) が付属します。カードリモコンは付属しません。なお、スーパーマルチリモコンはDVDプレーヤーの箱に入っています。

■オーディオコード (0.8m)



- 取扱説明書 (本書)
- カスタマー登録用紙
- 保証書

安全上のご注意

このたびは **amadana** サラウンドアンプをお買い求めいただきまして、誠に有り難うございます。
ご使用前に必ず本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、ご使用中にわからないことやトラブルが生じた時のために、お読みになった後は必ず保存してください。

安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示した項目です。



注意

人が傷害を負ったり、物的傷害の想定される内容を示した項目です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)



この表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



この表示は、してはいけない「禁止」内容です。



警告



交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は交流100ボルト専用です。
指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。



船舶などの直流(DC)電源に接続しない

火災の原因となります。



通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しないでください。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 風通しの悪い所で使用しないでください。
通気孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。



風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿気の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。



電源コードを傷つけない

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステーブルや釘などで固定したりしないでください。
 - 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしないでください。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷ついたら(芯線の露出、断線など)販売店またはお客様サポートセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙や異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。



雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。



電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。



機器の上に花瓶やコップなど液体の入った容器を置かない

液体がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。



機器の内部に水や異物を入れない

機器の通気孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。



機器の上ろうそくやランプなどの火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。



落下した機器は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



乾電池は充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。



機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検・修理は販売店またはお客様サポートセンターにご依頼ください。



注意



電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。



温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。



電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでみてもゆるみがあるコンセントの場合には、電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



電池の取り扱いに注意する

- 次のことを必ず守ってください。
- 極性表示(プラス“+”マイナス“-”の向き)に注意し、表示通りに入れる。
 - 指定の電池を使用する。
 - 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
 - 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
 - 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
 - 電池は地味した加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくとしておくと、過放電により液もれ、けがやけがの原因となることがあります。

液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。



移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



機器の上に重い物や外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。
特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力傷害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。



定期的に内部の点検、清掃をする

5年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、またはお客様サポートセンターに費用を含めご相談ください。

内部にはほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。



耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

知っておきましょう

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分にいたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

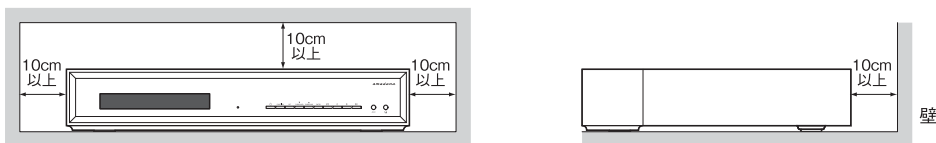
メモリーバックアップ

本機に通电されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ■ 入力切換の設定 | ■ 距離の設定 |
| ■ ボリュームの値 | ■ 各スピーカーチャンネルのレベル |
| ■ BASS、TREBLEレベル | ■ ディスプレイの明るさの設定 |
| ■ TONE オン/オフ | ■ インテリアライトの明るさの設定 |
| ■ スピーカーの設定 | |

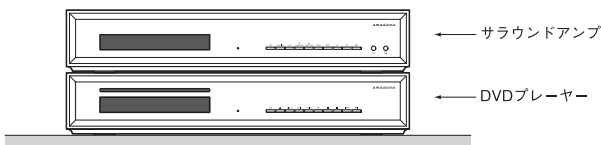
設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、背面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。(下図参照)



サラウンドセット (DDA-134) をご購入のお客様へ

DVDプレーヤーとサラウンドアンプを重ねて設置される場合は、放熱のためサラウンドアンプを上にご設置してください。



接続のしかた



注意

接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
機器の接続は8ページ～13ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

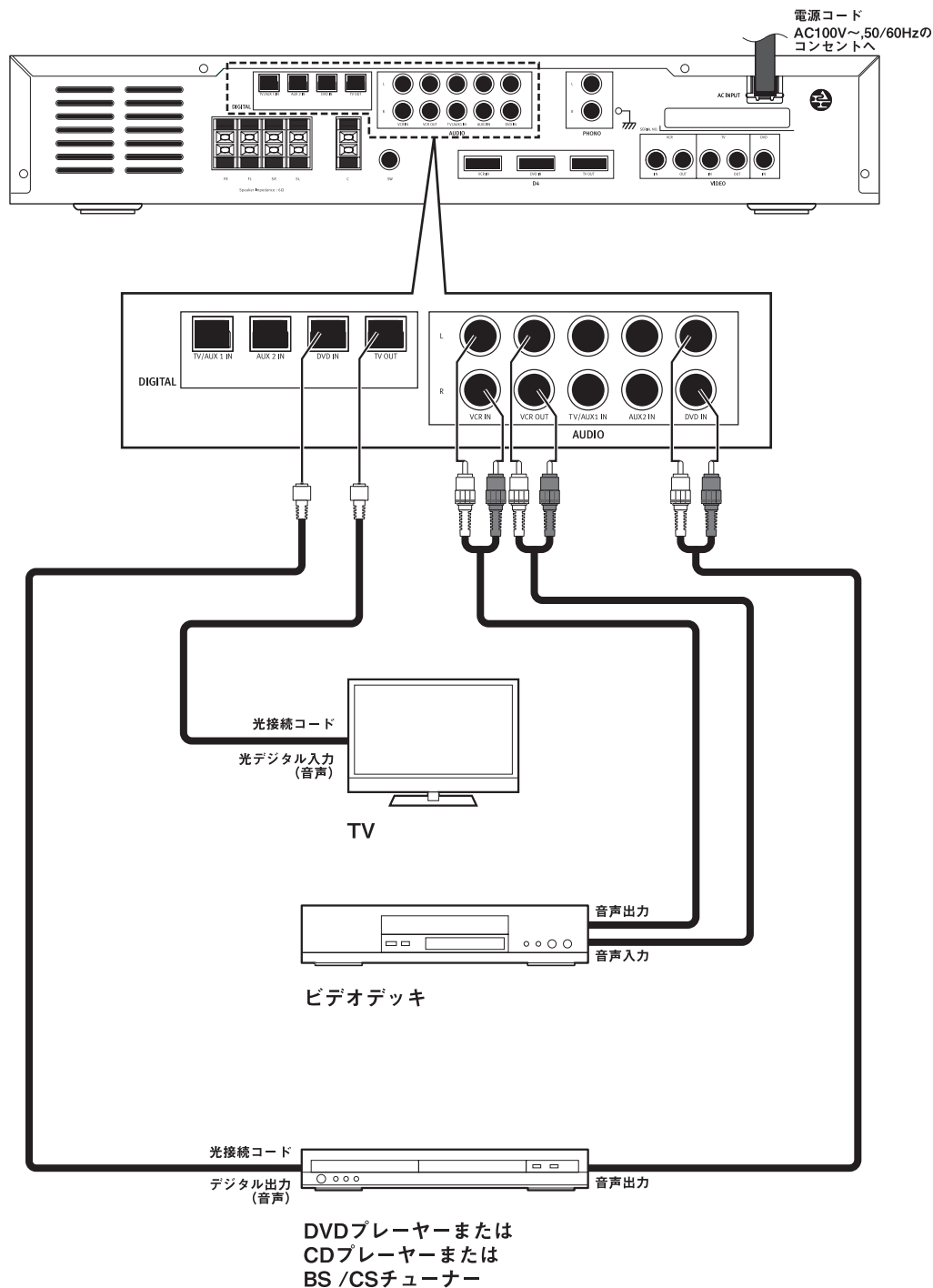
アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。
オーディオピンコードは赤い端子(R側に接続)と白い端子(L側に接続)のペアになっています。
これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

接続のしかた

音声信号について アナログ信号とデジタル信号の接続

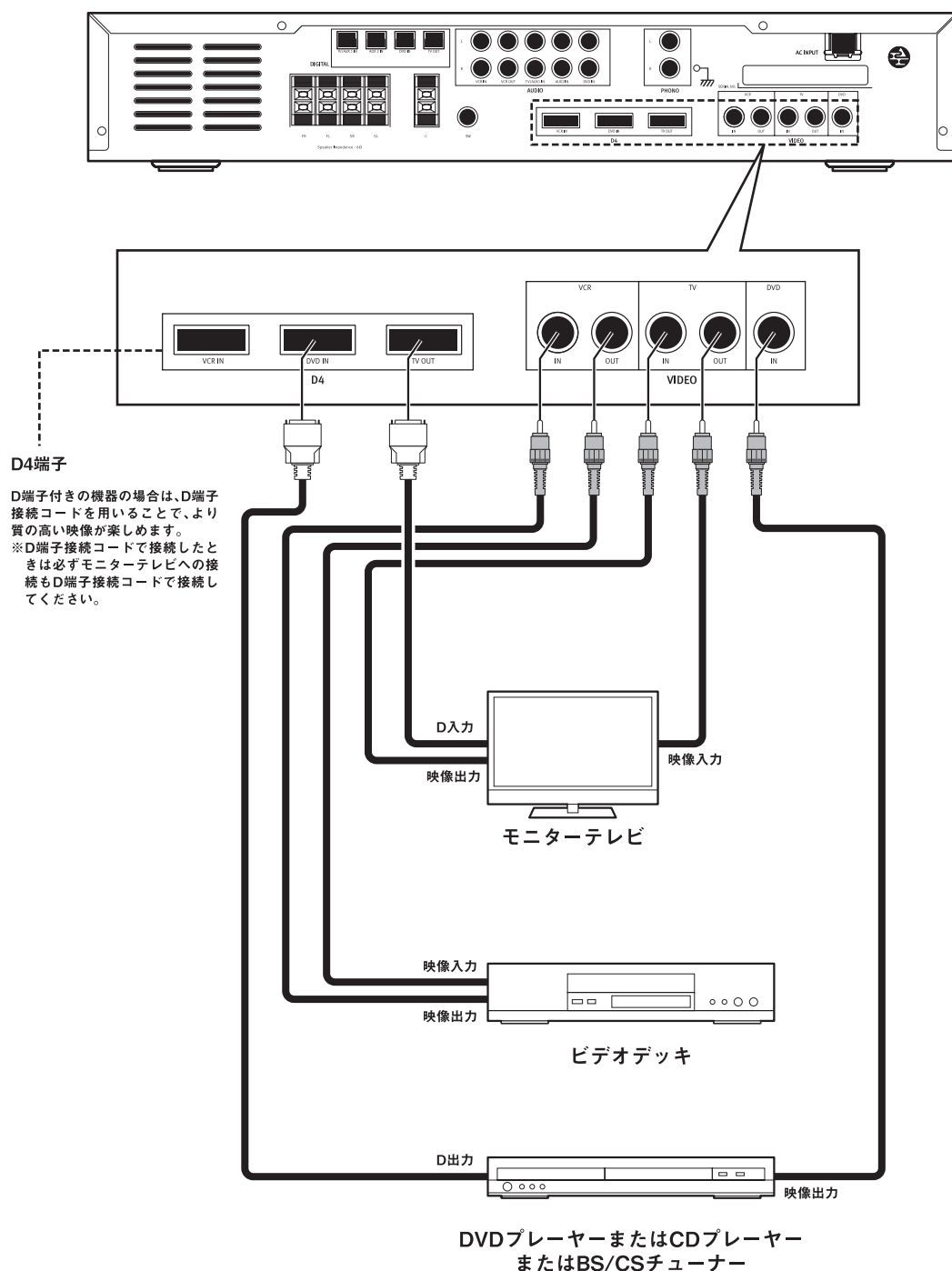
本機のデジタル入力端子はドルビーデジタル、AACまたはリニアPCM信号で使用できます。
ドルビーデジタル、AACまたはリニアPCM(CDなど)標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。



接続する機器からの音声出力はアナログ・デジタルのどちらか一方のみ接続してください。

接続のしかた

映像信号の接続

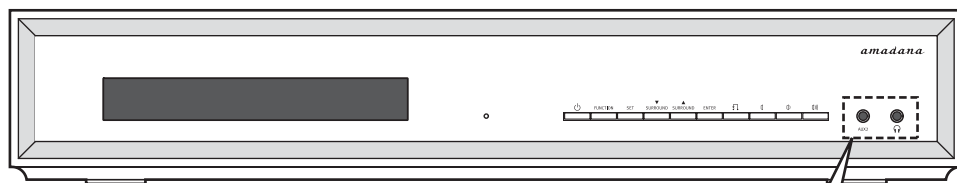


接続する機器からの音声出力はアナログ・デジタルのどちらか一方のみ接続してください。

接続のしかた

本体前面の入力端子への接続

ポータブルオーディオ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAUX端子に接続します。



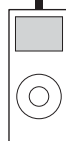
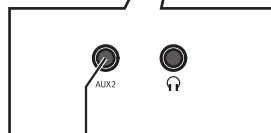
AUX2端子に接続されたソースを選択する場合は、本体のFUNCTIONを押してAXU2をもしくはリモコンでAUX2を選択してください。

リモコン

リモコン(CR-202AV)

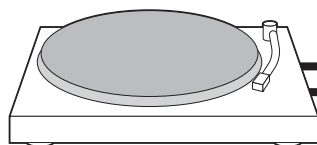
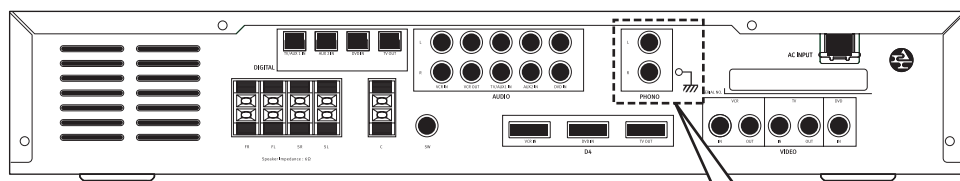


ポータブルMP3プレーヤーなどのオーディオ機器を接続することができます。
その場合は、AUDIO L/R端子のみ接続してください。なお、端子はステレオミニジャックをご使用ください。



ポータブルMP3プレーヤーなどのオーディオ機器

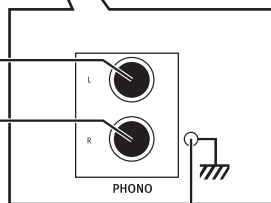
レコードプレーヤーの接続



アナログ音声出力

アース線

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。



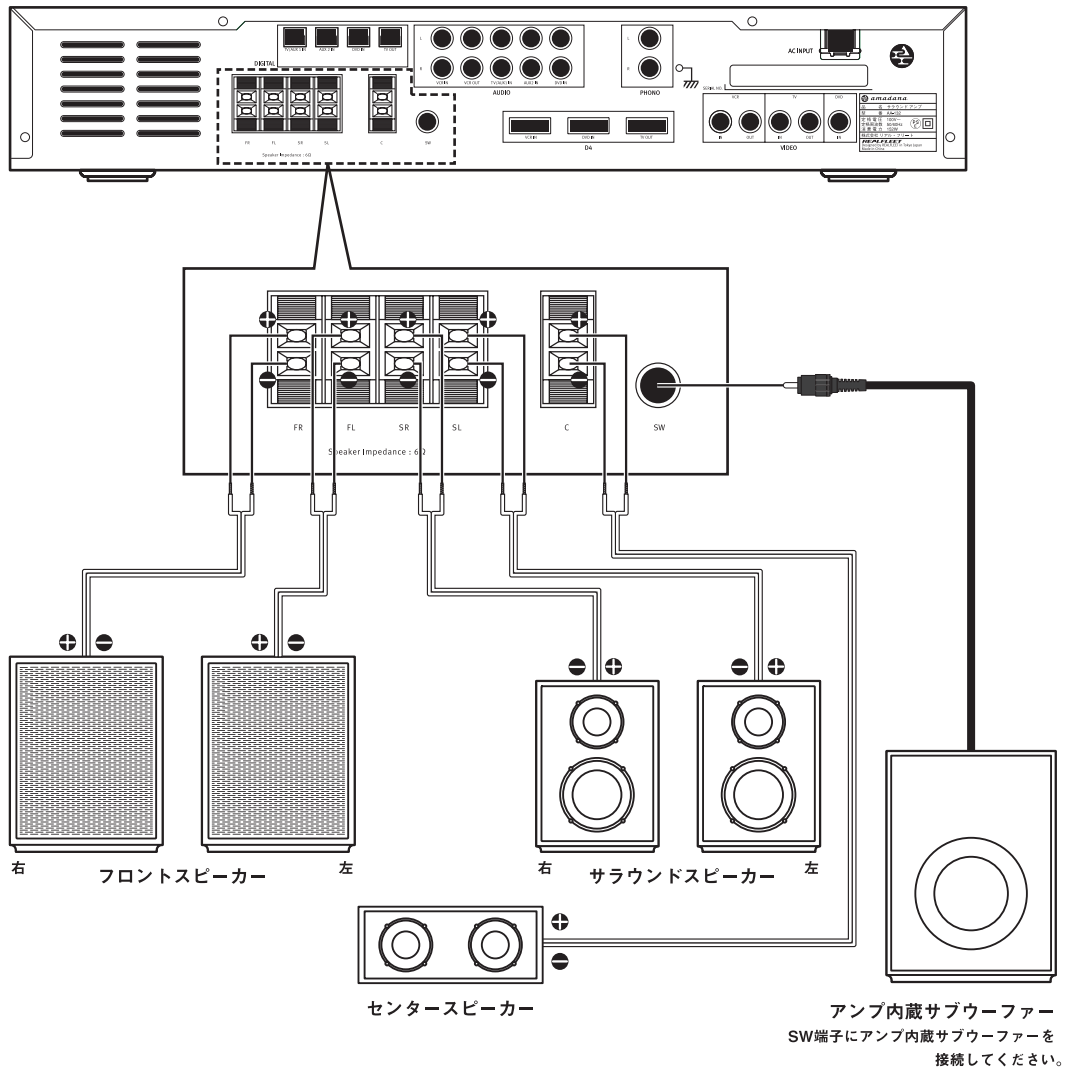
SIGNAL GND端子へ

ご注意

SIGNAL GND端子は安全アースではありません。一般的にノイズが多いときに接続するとノイズレベルを低減できます。
レコードプレーヤーによってはノイズレベルが高くなってしまうことがありますので、お使いのレコードプレーヤーに合った接続をお試しください。

接続のしかた

スピーカーの接続



各スピーカーが正しく接続されているか確かめるには、テストトーンを出力し、各スピーカーチャンネルの音が出力されているかどうかで判断することができます。詳しくは“各スピーカーの音量レベルを調整する”(P21)をご覧ください。

接続のしかた

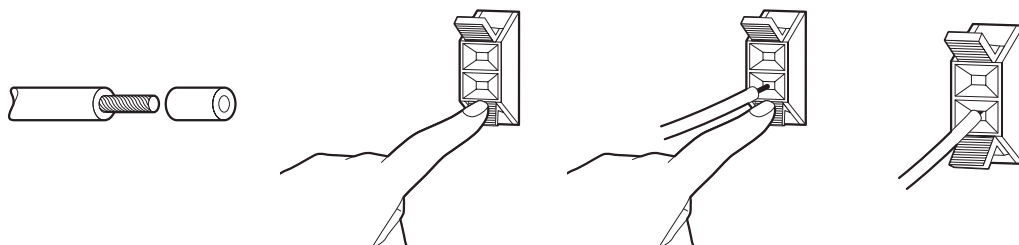
スピーカーターミナルの接続

① コードの被覆をむく

② レバーを押す

③ コードを差し込む

④ レバーを戻す



※スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。

※左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。
正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

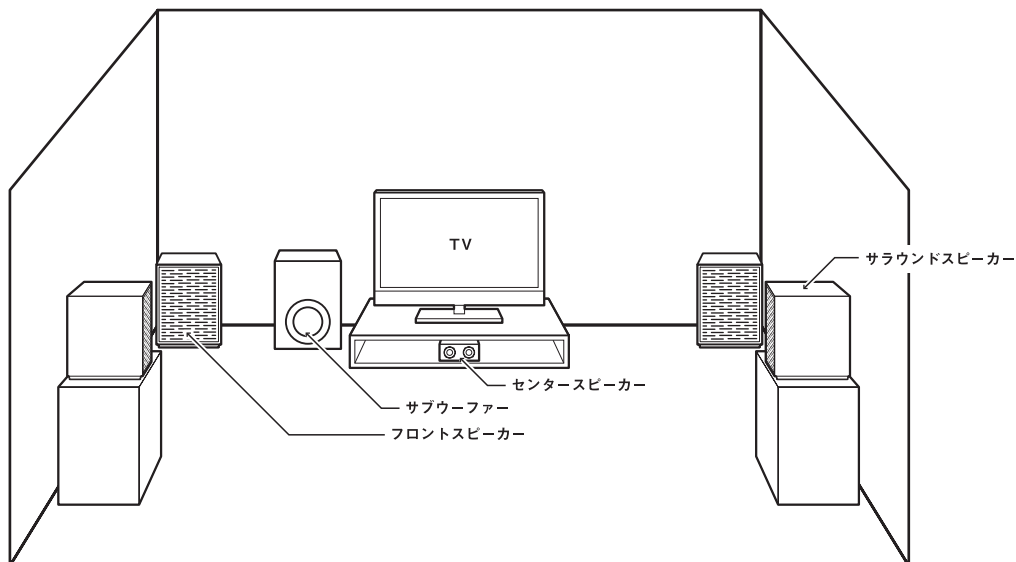
フロントスピーカー.....6~16 Ω

センタースピーカー.....6~16 Ω

サラウンドスピーカー.....6~16 Ω

※サブウーファーはアンプ内蔵のものを使用してください。

サラウンドスピーカーの設置のしかた



フロントスピーカー : 前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

センタースピーカー : 前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。

サラウンドスピーカー : 座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。
音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

サブウーファー : 重低音を迫力ある音で再現します。

※すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生が出来ますが、フロントスピーカーのみでもドルビーバーチャルスピーカーにより最適な再生を行えます。

サラウンドセット(DDA-134)をご購入された場合の接続のしかた

サラウンドセット(DDA-134)をご購入されたお客様は、お使いのテレビの映像入力方式に合わせて、下記の図を参考に接続してください。

映像端子の接続について

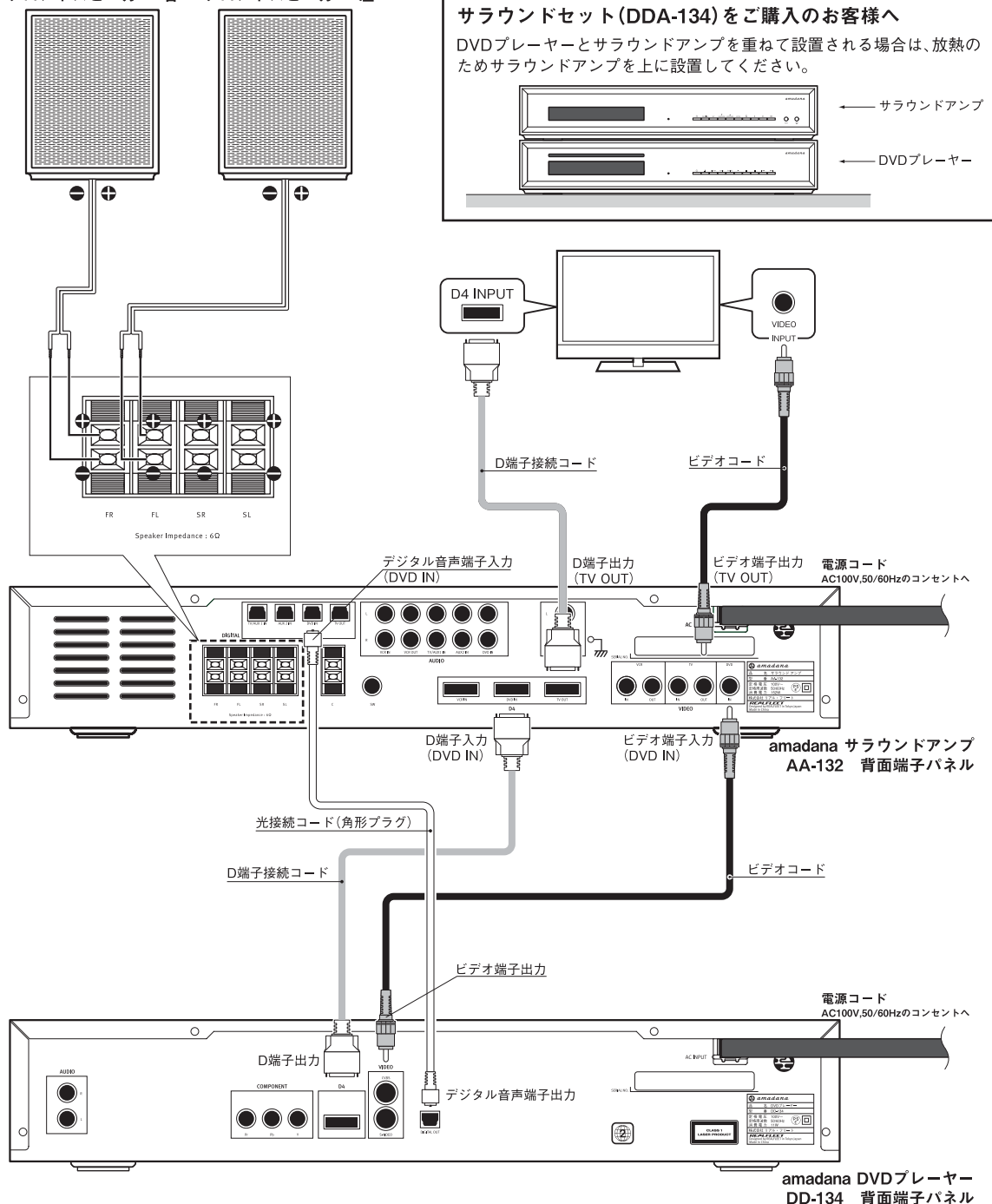
標準ビデオ入力端子のテレビと接続する場合：下図の  の配線のように市販のビデオコードで接続してください。

D端子のテレビと接続する場合：下図の  の配線のように市販のD端子接続コードで接続してください。

※どちらか一方のみ接続してください。故障、ノイズの原因となります。

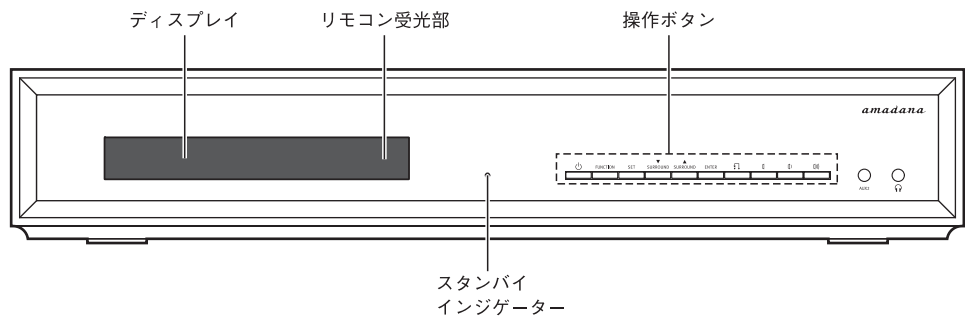
※どちらの接続の場合でも音声端子の接続は光接続コード（角形プラグ）で接続してください

フロントスピーカー:右 フロントスピーカー:左



各部の名前

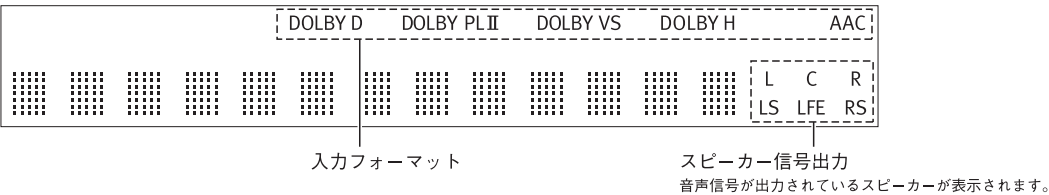
■ フロントパネル



スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジゲーターが青色に点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます

■ ディスプレイ表示詳細



音響モード (P26、27参照)

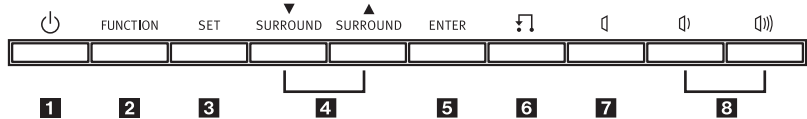
DOLBY D	ドルビーデジタル	DOLBY H	ドルビーヘッドホン
DOLBY PL II	ドルビープロロジック・ツー	AAC	エー・エー・シー
DOLBY VS	ドルビーバーチャルスピーカー		

スピーカー 音声出力 (P20参照)

L	フロント左スピーカー	R	フロント右スピーカー	LFE	サブウーファー
C	センタースピーカー	LS	サラウンド左スピーカー	RS	サラウンド右スピーカー

※ヘッドホン接続時はL・Rのみ表示されます。

■ 操作ボタン詳細



1 POWER (電源) ボタン (P19参照)

電源をONまたはSTANDBYに切り替えます。

2 FUNCTION ボタン (P23、P25参照)

入力機器を切り替えます。

3 SET ボタン (P19参照)

詳細設定を行う時に使用します。

4 SURROUND ▼/▲ ボタン (P19、P28参照)

サラウンドモードの切り替えやメニュー内でのカーソルの移動に使用します。

5 ENTER ボタン (P19参照)

選んだ項目を決定するときに使います。

6 RETURN ボタン (P19参照)

メニューを1つ手前に戻します。

7 MUTE ボタン (P24参照)

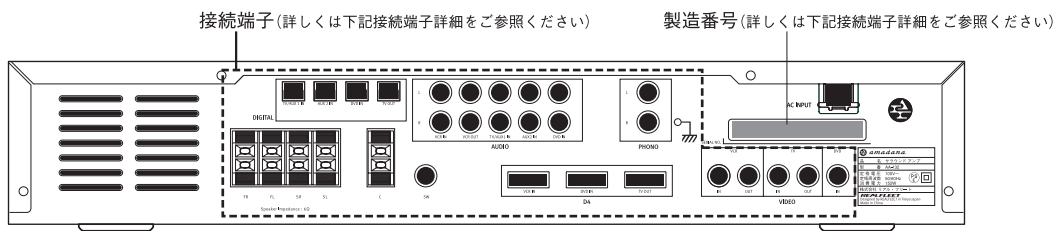
一時的に音を消します。

8 VOLUME ボタン (P23参照)

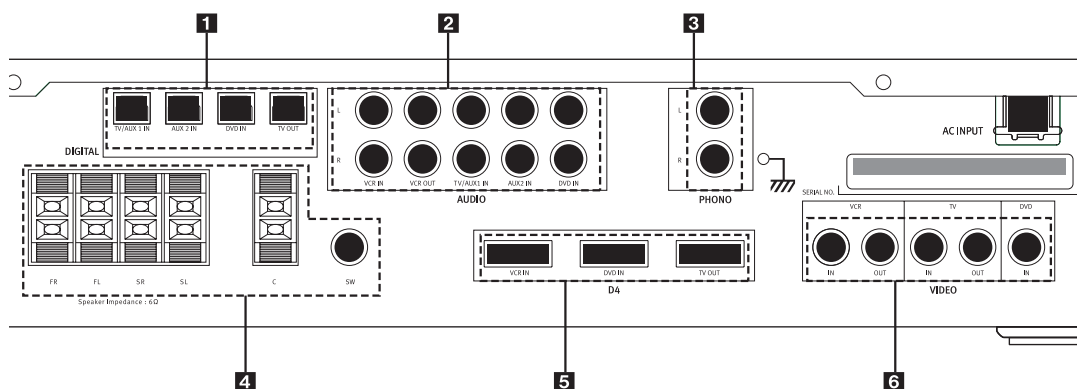
音量を調節します。

各部の名前

■ リアパネル



■ 接続端子詳細



1 デジタル音声入出力端子 (OPTICAL)

光接続コード (市販) を接続します

2 アナログ2チャンネル音声入出力端子

オーディオコード (1 本付属) を接続します

3 PHONO入力端子

アナログレコードプレーヤーと接続する際に
オーディオコードを接続します

4 スピーカー接続端子

スピーカーケーブルを接続します

5 D4端子 (D4)

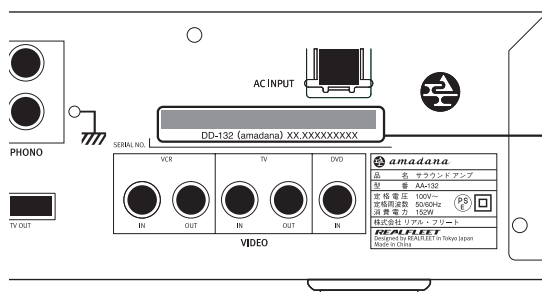
D端子接続コード (市販) を接続します

6 映像出力端子

ビデオコード (市販) を接続します

※接続についての詳細は、「接続のしかた」(P7～P13) をご覧ください。

■ 接続端子詳細



カスタマー登録の際に必要な、製造番号は本体背面に
記載されています。
(シールのバーコードの下部にある11桁の数字 例:06100000001)
→カスタマー登録についての詳細は付属の「カスタマー登録用紙」を
ご参照ください。

リモコンの操作

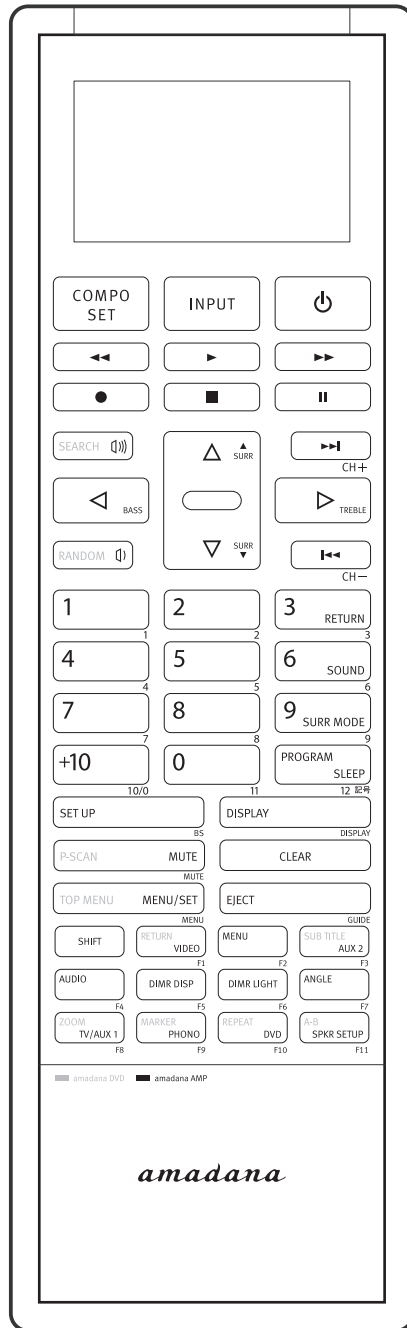
本体と同じ名前のリモコンボタンは本体ボタンと同じ働きをします。
お客様がお買い上げの商品によりカードリモコンまたはマルチリモコンのどちらかが付属しています。

AA-132をお買い上げの方



このリモコンは、amadanaスーパーマルチリモコン(別売)への学習用機器として付属しています。
このリモコンによる本体の操作は可能ですが、より便利に、より快適にご使用いただくには、amadanaスーパーマルチリモコンのご使用を推奨いたします。

DDA-134をお買い上げの方



amadanaスーパーマルチリモコン
ホームシアターセット専用モデル
型名:CR-202AV

リモコンの操作



POWER(電源) ボタン

電源をONまたはSTANDBYに切り替えます。



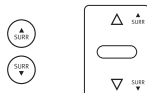
音量UP/DOWNボタン

音量を上げます。



音量 ボタン

音量を下げます。



▲▼SURR ボタン

サラウンドモードの切り替えやメニュー内でのカーソルの移動に使います。



ENTER ボタン

選んだ項目を決定するとき押します。



BASS ボタン

低音の調整をします。



TREBLE ボタン

高音の調整をします。



RETURN ボタン

メニューを一つ手前に戻します。



SOUND ボタン

PL II、DHのモード切り替え時に使用します。



SURR MODE ボタン

サラウンドモードの切り替えをします。



SLEEP ボタン

スリープの時間を設定します。



MUTE ボタン

一時的に音を消します。



MENU/SET ボタン

メニューを表示します。



VIDEO ボタン

入力をVIDEOに切り替えます。



AUX2 ボタン

入力をAUX2に切り替えます。



DIMMER DISPLAY ボタン

ディスプレイの明るさを調節します。



DIMMER LIGHT ボタン

インテリアライトの明るさを調節します。



TV/AUX1 ボタン

入力をTV/AUX1に切り替えます。



PHONO ボタン

入力をPHONOに切り替えます。



DVD ボタン

入力をDVDに切り替えます。



SPKR SETUP ボタン

スピーカーの設定を行います。

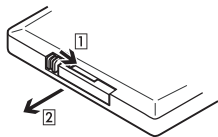
リモコンの操作

リモコンの準備

電池の入れかた

■ カードリモコン

1 電池カバーをはずす

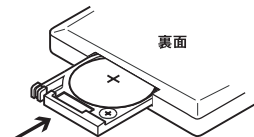


2 ボタン電池を入れる

※CR2025を極性表示に合わせて入れる



3 電池カバーを取り付ける

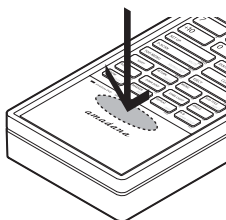


※ご購入後、初めてご使用になるときは、ふたのところに絶縁シートが挟まっていますので、引き抜いてからご使用ください。

■ スーパーマルチリモコン (CR-202AV)

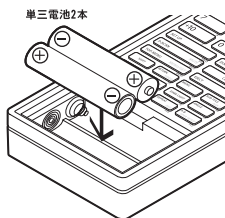
1 電池カバーをはずす

「amadana」ロゴの上を押し、カバーをはずしてください



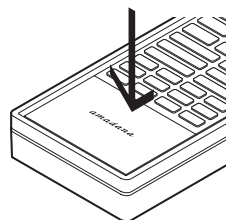
2 乾電池を入れる

※付属の乾電池はお試用です



3 電池カバーを取り付ける

「amadana」ロゴの上を押し、カバーを取り付けて下さい

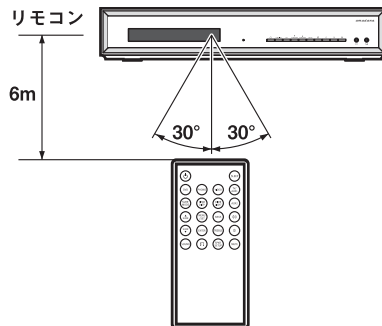


操作の仕方

本体の電源プラグをコンセントに差し込み、本体のON/STANDBYボタンまたはリモコンのPOWERボタンを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。電源をオフにするときは、再度ON/STANDBYボタンまたはPOWERボタンを押します。

※リモコンの各操作ボタンを押してから次のボタンを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

スーパーマルチリモコンでの操作の際はCOMPO SETを押し、液晶に“AMP”を表示させてからご使用ください。
詳しくは、amadanaDVDプレーヤー取扱説明書の巻末(A-05ページ)をご参照ください。



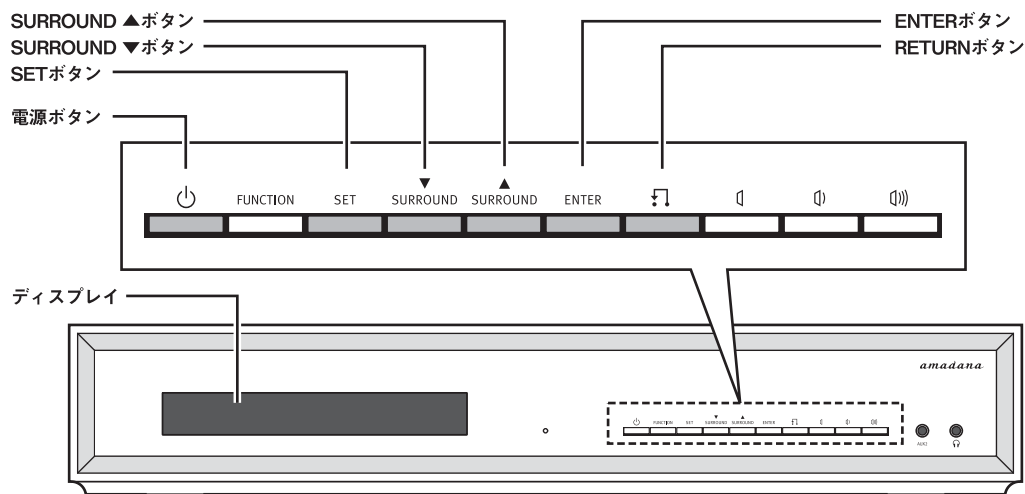
1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

基本操作

はじめて使用する際には各種設定をする(セットアップモード)

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー(サブウーファー、フロント、センター、サラウンド)の各種設定をします。ここでは、本体のボタンを使用した設定の方法を説明します。

※付属のリモコンでも同様の操作を行うことができます。



1 電源ボタンを押して本機の電源をオンにします。

2 セットアップモードにするためSETボタンを押します。

本体ディスプレイには、スリープ設定モード「SLEEP」が表示されます。

※約5秒間、ボタン操作がない場合、ディスプレイは通常の表示に戻ります。



スピーカーセットアップ表示例。
「SPKR.SETUP」以外の表示は接続環境により異なります。

3 SURROUNDボタンを押して、設定モードを変更します。

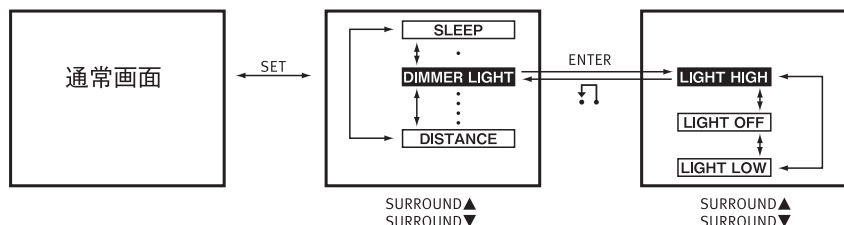
SURROUND▲/▼ボタンを押すたびに、各種設定モードは次のように変わります。

- ① SLEEP(スリープ)----- 設定した時間が経過すると電源がオフになります。(P31)
- ② TONE(トーン)----- 高音(TREBLE)と低音(BASS)を調整します。(P24)
- ③ DIMMER LIGHT(ディマーライト)----- インテリアライトの明るさを調整します。(P30)
- ④ DIMMER DISP(ディマーディスプレイ)----- ディスプレイの明るさを調整します。(P30)
- ⑤ SURR PRMTR(サラウンドパラメーター)---- 音声信号のフォーマット表示と変更(一部)をします。
- ⑥ SPKR.SETUP(スピーカーセットアップ)---- 接続しているスピーカーのサイズや有無の設定をします。(P20)
- ⑦ TEST TONE(テストトーン)----- 接続したスピーカーから順に音を出し、スピーカーの接続の確認や音量を調整します。(P21)
- ⑧ DISTANCE(ディスタンス)----- リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定します。(P22)

4 ENTERボタンを押して、設定モードを決定します。

設定モードを決定したあと、同様にSURROUND▲/▼ボタンで各種設定項目を選択し、ENTERボタンで決定します。ひとつ前の項目へ戻るときは、RETURNボタンを押します。

操作手順例



※約5秒間、何もボタンが押されないと、通常の画面へ戻ります。

サラウンド再生の準備をする

スピーカーの有無の設定をする (SPKR.SETUP)

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー(サブウーファー、フロント、センター、サラウンド)の有無やサイズの設定をします。

スピーカーは「接続のしかた」(P11参照)を参照のうえ、アンプに接続しておきます。

※スピーカーの設定をする際には、フロントパネルにあるヘッドホン端子には、なにも接続しないでください。

※本設定は、音響モードがAUTO DECODE MODEときに機能します。

SURROUND▼/▲ボタンを押して、AUTO DECODE MODEに設定してください。(P27参照)

まず最初に、ご使用のスピーカーの大きさや有無を設定します。この項目はSETメニューのSPKR.SETUP(スピーカーセットアップ)で設定します。

1 POWER(電源)ボタンを押して本機の電源をオンにします。



2 SETUPモードにするため本体のSETボタンを押します。(リモコンはMENU/SETボタン)

次にSURROUND▼/▲ボタンを押し設定項目を変更します。



設定項目は次の順で切り換わります。

- 1 SLEEP(スリープ)
- 2 TONE(トーン)
- 3 DIMMER LIGHT(ディマーライト)
- 4 DIMMER DISP(ディマーディスプレイ)
- 5 SURR PRMTR(サラウンドパラメーター)
- 6 SPKR.SETUP(スピーカーセットアップ)
- 7 TEST TONE(テストトーン)
- 8 DISTANCE(ディスタンス)

※リモコンの場合、SPKR SETUPボタンで直接選択できます。



※約5秒間、何もボタンが押されないと、通常の画面へ戻ります。

3 SPKR.SETUP(スピーカーセットアップ)を選択します。

「SPKR.SETUP」が表示されたらENTERボタンを押します。

※誤って選択したときなど、前の項目へ戻るときはRETURNボタンを押します。



本体ディスプレイに「FRONT」と表示されます。SURROUND▼/▲ボタンを押し、設定するスピーカーを表示させます。

- 1 FRONT(フロント)
- 2 CENTER(センター)
- 3 SURROUND(サラウンド)
- 4 SUBWOOFER(サブウーファー)



4 スピーカーのサイズまたは有無を設定します。

ENTERボタンで、スピーカーを決定し、SURROUND▼/▲ボタンでサイズまたは有無を選択します。

SURROUND▼/▲ボタンで選択したら (ENTERボタンは使用しません)、RETURNボタンでスピーカー選択項目へ戻り、同様の手順で他のスピーカーの設定をします。

設定項目は、スピーカーの種類によって異なります。

- FRONT(フロント) ----- SMALL, LARGE
- CENTER(センター) ----- SMALL, LARGE, NONE
- SURROUND(サラウンド) ----- SMALL, LARGE, NONE
- SUBWOOFER(サブウーファー) ----- ON, OFF

※SMALL・・・ブックシェルフ型、LARGE・・・ツール型

※amadanaスピーカー (型名:PS-133) はSMALLを選択してください。



5 SETボタンを押して確定させます。

各種スピーカーの設定を終えたら、SETボタンを押して、スピーカーセットアップを終了します。

amadanaサラウンドセット (型名:DDA-134) をお買い上げの客様は、下記の通り設定してください。

- FRONT(フロント) ----- SMALL
- CENTER(センター) ----- NONE
- SURROUND(サラウンド) ----- NONE
- SUBWOOFER(サブウーファー) ----- OFF

サラウンド再生の準備をする

各スピーカーの音量レベルを調整する (TEST TONE)

実際に聴く位置で、それぞれのスピーカーのボリュームレベルを調整します。各スピーカーからの音の大きさがほぼ同じになるようにします。

1 SETUPモードにするため本体のSETボタンを押します。(リモコンはMENU/SETボタン)

次にSURROUND▼/▲ボタンを押し設定項目を変更します。



2 TEST TONE(テストトーン)を選択します。

「TEST TONE」が表示されたらENTERボタンを押します。



※誤って選択したときなど、前の項目へ戻るときはRETURNボタンを押します。

最初に左スピーカーから約2秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから約2秒間ずつテストトーンが聞こえます。

テストトーンが聞こえる順番

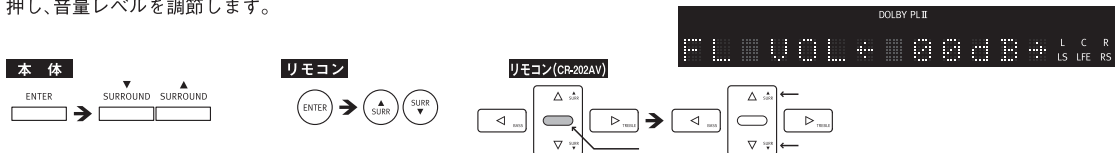


※聞こえないときは音量を上げてください。

※スピーカーセットアップでスピーカーを削除した場合、そのスピーカーの設定はできません。

3 ボリュームレベルを調節します

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにENTERボタンを押します。続けてSURROUND▼/▲ボタンを押し、音量レベルを調節します。



※音量レベルを調節後、続けて他のスピーカーのテストトーンを確認する場合は、RETURNボタンを押します。



4 SETボタンを押して確定させます。

各種スピーカの設定を終えたら、SETボタンを押して、スピーカーセットアップを終了します。

サラウンド再生の準備をする

より正確な音響効果を再現するためには、実際に聴く位置からスピーカーまでの距離を測ることをおすすめします。

スピーカーまでの距離を入力する (DISTANCE)

メジャーなど距離を測る道具をご用意ください。

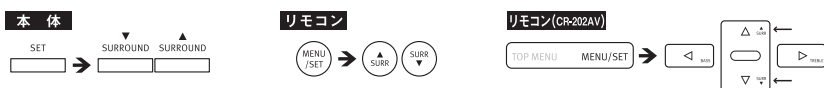
1 実際に聴く位置から各スピーカーまでの距離をはかります。

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで (FL)	_____ メートル	サラウンド右スピーカーまで (SR)	_____ メートル
センタースピーカーまで (C)	_____ メートル	サラウンド左スピーカーまで (SL)	_____ メートル
フロント右スピーカーまで (FR)	_____ メートル	サブウーファーまで (SB)	_____ メートル

2 SETUPモードにするため本体のSETボタンを押します。(リモコンはMENU/SETボタン)

次にSURROUND▼/▲ボタンを押し設定項目を変更します。



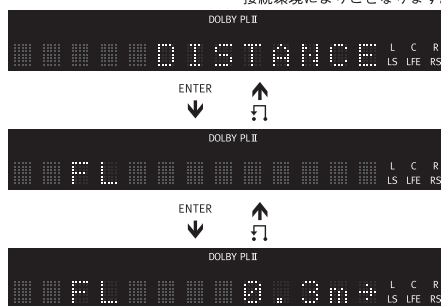
ディスタンス表示例。
「DISTANCE」以外の表示は
接続環境により異なります。

3 TEST TONE (テストトーン) を選択する。

「DISTANCE」が表示されたらENTERボタンを押します。



※誤って選択したときなど、前の項目へ戻るときはRETURNボタンを押します。



4 「FL」と表示されます。

ENTERボタンを押して、距離を設定するモードへ移ります。

SURROUND▼/▲ボタンを押して、距離を設定します。

0.3m～6.0mまで、0.3mごとに調整できます。

スピーカーの表示順

FL → C → FR → SR → SL → SW

※スピーカーセットアップでスピーカーを削除した場合、そのスピーカーの設定はできません。

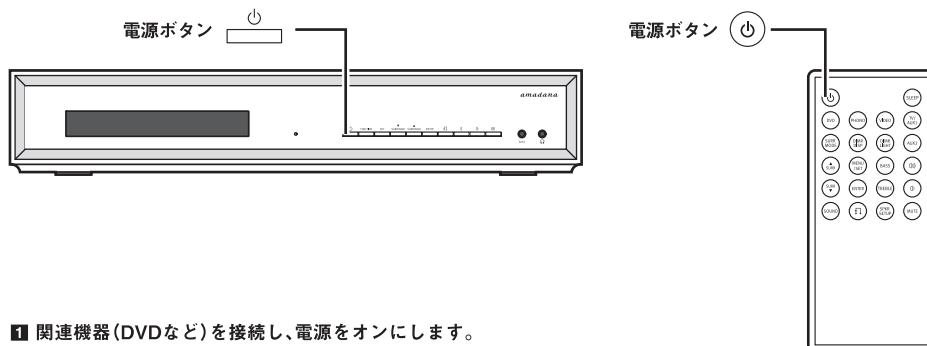
5 SETボタンを押して確定させます。

各種スピーカの設定を終えたら、SETボタンを押して、スピーカーセットアップを終了します。

再生のしかた

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。



❶ 関連機器(DVDなど)を接続し、電源をオンにします。

❷ POWER(電源)ボタンを押して本機の電源をオンにします。

再生する

❶ 本体のFUNCTIONボタンで聴きたい入力機器を選ぶ。または、リモコンのボタンで直接選択します。



それぞれのボタンを使い入力機器を選択してください。

- ❶ DVD(DVDプレーヤー)
- ❷ PHONO(レコードプレーヤー)
- ❸ VCR(ビデオデッキ)
- ❹ TV/AUX1(テレビ/外部入力1)
- ❺ AUX2(外部入力2)

❷ 選んだ入力機器につないだ機器を再生します。

❸ VOLUMEボタンで音量を調節します。



再生のしかた

トーンレベルを設定する。(TONE)

トーンレベルで低音または高音のレベルを設定できます。

- 1 リモコンのBASSボタンまたはTREBLEボタンを押します。

リモコン



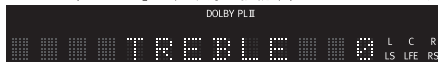
リモコン(CR-202AV)



BASS :バス(低音)レベルの設定

TREBLE:トレブル(高音)レベルの設定

トーンレベル表示例。
「TREBLE」以外の表示は接続環境により異なります。



- 2 SURROUNDボタンを使ってトーンレベルを設定します。

バスとトレブルのレベルは-8から+8の範囲で2ステップごとに調節できます。

設定終了後約5秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

※サラウンドモード(P27)がDIRECTモードの時はトーンレベルの設定は出来ません。

一時的に音を消す

MUTEボタンを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

MUTEボタンを押します。

スピーカーから出る音が消えます。

本体



リモコン



リモコン(CR-202AV)



解除するにはもう一度MUTEボタンを押して「MUTE ON」表示を消灯させます

※音量変更(VOLUMEボタンを押す)をした場合はMUTE ONは解除されます。

ヘッドホンで聴く

- 1 ヘッドホンヘッドホン端子につなぎます。

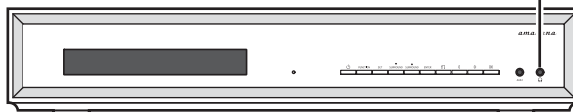
※スピーカーから音が出なくなります。

- 2 VOLUMEボタンで音量を調節します。

※ヘッドホンをつないだとき、ドルビーヘッドホンがオンとなります。

ドルビーヘッドホンの設定はP00を参照してください。

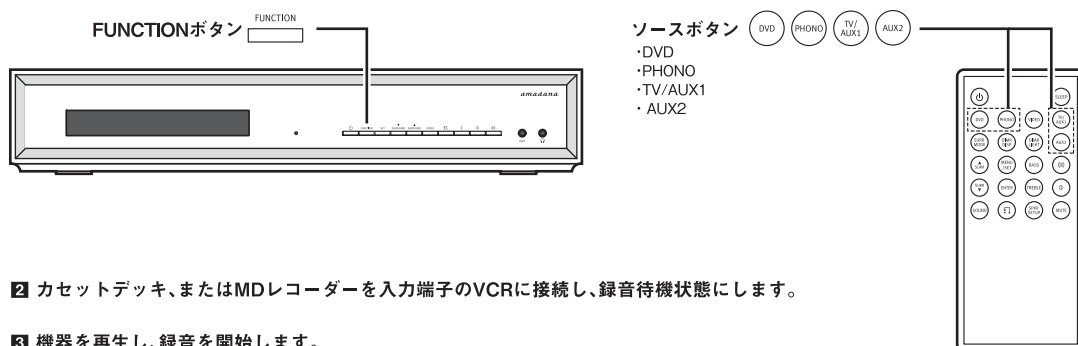
ヘッドホン端子



録音(録画)のしかた

録音のしかた(アナログ機器) 音楽ソースを録音する

❶ FUNCTIONボタンで録音する機器(“VCR” 以外)を選びます。リモコンは直接、録音したい機器のボタン(“VIDEO” 以外)を選びます。



❷ カセットデッキ、またはMDレコーダーを入力端子のVCRに接続し、録音待機状態にします。

❸ 機器を再生し、録音を開始します。

録画のしかた

❶ FUNCTIONボタンで録音する機器(“VCR” 以外)を選びます。リモコンは直接、録音したい機器のボタン(“VIDEO” 以外)を選びます。

❷ 入力端子のVCRに接続したビデオデッキを録画待機状態にします。

❸ 機器を再生し、録画を開始します。

※録画するビデオの信号によってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。

臨場感を楽しむ

本機のサラウンドモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。

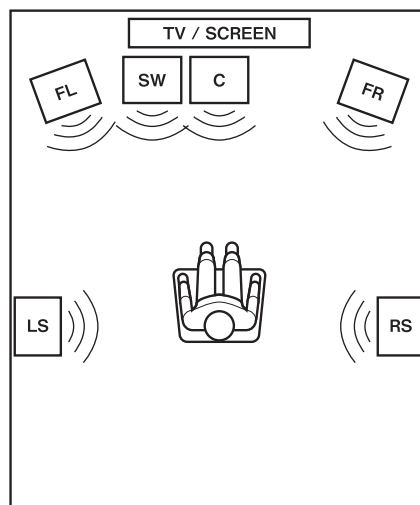
サラウンドモードの種類

右図は

- Dolby Digital
- Dolby Pro Logic II
- AACマルチチャンネルモード

のような5.1チャンネルサラウンドシステムのためのスピーカー設置図です。

FL フロント左スピーカー
SW サブウーファー
C センタースピーカー
FR フロント右スピーカー
LS サラウンド左スピーカー
RS サラウンド右スピーカー



Dolby Digital(ドルビーデジタル)

ドルビーラボラトリーズ社が開発したデジタルサラウンド方式です。最大5.1チャンネルに対応しています。DVD-VIDEO(一般的なDVDソフト)の標準音声フォーマットとして使用されています。

AAC(エー・エー・シー:Advanced Audio Coding)

MPEG標準化団体が開発した音声データを圧縮する技術です。最大5.1チャンネルに対応しています。BSデジタル放送や地上波デジタル放送などのデジタル放送分野で使用されています。

Dolby Pro Logic II(ドルビープロロジック・ツー)

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックをさらに改良した技術です。CDやレコードなどのあらゆるステレオ音声をマルチチャンネル音声のような立体音場で楽しむことができます。

Dolby Virtual Speaker(ドルビーバーチャルスピーカー)

ドルビーバーチャルスピーカーは、フロントに置いた2チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が楽しめます。リスニングモードは2種類から選択でき、標準(REFERENCE)モードとワイド(WIDE)モードが提供されます。(P 28参照)

Ref. : リファレンスモード。標準的な部屋の大きさを想定しています

Wide : ワイドモード。リファレンスモードに比べてフロントの音の広がりを強調しています

Dolby Headphone(ドルビーヘッドホン)

ドルビーヘッドホンは、部屋でのスピーカー再生をシミュレートし、音源が前方あるいは側面にあるように再現できるため、映画館やホームシアターなどの大きな部屋で視聴しているような迫力のあるサウンドを楽しめます。ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音声だけでなくステレオ音声でも効果が得られます。また、3つのモード(DH1 / DH2 / DH3)から視聴する音楽や映画音声に合った音場を選択できます。(P29参照)

DH1 : 小さな部屋の設定。すべての音楽や映画音声に標準的な効果が得られます。

DH2 : DH1と同じ規模の部屋で、DH1より少し大きく反響します。音楽の再生に、より効果が得られます。

DH3 : DH1・DH2よりもさらに大きい部屋の設定。コンサートやライブの音声、映画音声により効果が得られます。

BYPASS : ステレオ再生です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
DOLBY、PRO LOGIC、AAC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

臨場感を楽しむ

各種音響モードの説明

DSPサラウンドパラメーター	5ch STEREO	サラウンド信号のLchにフロントのLch、サラウンド信号のRchにフロントのRchの信号を出力。センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサラウンドを楽しむためのモードです。
	MOVIE	豊かな音場で映画館さながらの臨場感を楽しむためのモードです。
	ARENA	反射音が回りこんでくるアリーナでのコンサートの雰囲気を楽しむためのモードです。
	JAZZ	天井が低いライブハウスのような場所で、演奏者がすぐ近くで演奏している雰囲気を楽しむためのモードです。
	GAME	パソコンのゲームなどの3次元的なサラウンド効果を楽しむためのモードです。
	MATRIX	ステレオ録音された音源を、広がり感を強調して楽しむためのモードです。サラウンドchからは入力された信号の差の成分に遅延処理を加えた信号が出力されます。
STEREO(ステレオ)		入力された信号をダウンミックスし、フロントchのみを出力します。
DIRECT(ダイレクト)		入力された信号のフロントchのみをそのまま出力します。この機能の際にはバス、トレブル調整は効きません。
DOLBY PL II (ドルビー・プロロジック・ツー)	MUSIC	音楽再生に適した音声に調節します。
	CINEMA	映画再生に適した音声に調節します。
DOLBY VS (ドルビー・バーチャルスピーカー)	2SP Ref.	標準的な部屋の大きさを想定して音の広がり仮想化しており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生を楽しめます。
	2SP Wide	リファレンスモードに比べてフロントの音の広がりを強調しています。
DOLBY H (ドルビー・ヘッドホン)	DH1	小さな部屋で音楽を聞いているような状況を想定しています。残響感を少なくしています。
	DH2	DH1より少し大きな部屋で、さらに音が反響します。音楽の再生に効果的です。
	DH3	DH1,2より大きな部屋を想定しています。コンサートやライブの音声の再生に効果的です。
	BYPASS	ステレオ再生になります。
AUTO DECODE(オートデコード)		入力された信号から最適な音響モードを自動で選択します。

※入力される音源によって、ディスプレイ表示と選択できるモードが異なります。

※以下がAACに関する米国特許番号です。

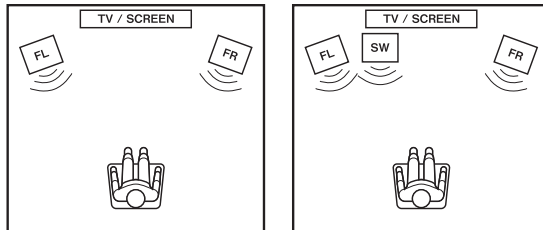
08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

臨場感を楽しむ

ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた

- ドルビーバーチャルスピーカーモードは、ドルビーラボラトリーズの立体音響技術です。
- フロント2chとサブウーファースの2.1chでマルチチャンネルサラウンドの立場を再生できるモードです。
- ドルビーデジタル、AACのマルチチャンネルソースだけでなく2チャンネルソースにも効果的です。2チャンネルソースに対しては、ドルビープロロジックIIシネマによるドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。

右図のようなシステムで再生する際に有効なモードです。



1 SURROUND▼/▲ボタンを押して“DOLBY PL II”を点灯させます。

2 リモコンのSOUNDボタンを押します。

「2SP Ref.」または「2SP Wide」が表示されたらENTERボタンを押します。
(ディスプレイ左右に矢印が表示されます)



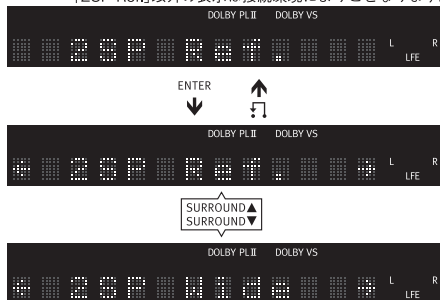
SURROUND▼/▲ボタンを押してモードを変更します。

SURROUND▼/▲ボタンを押すと下記のようにモードが切り替わります。

- Ref. : 標準モード
標準的なモードです。
- Wide : ワイドモード
フロントチャンネルの音場を拡大します。

3 ENTERボタンを押して終了します。

ドルビーバーチャルスピーカーモード表示例。
「2SP Ref.」以外の表示は接続環境により異なります。



サウンドモード(CINEMA/MUSIC/GAME)の選択

DOLBY PL II(ドルビー・プロロジックツー)で再生時、3つのモードからお好みの音響を選択できます。

1 SURROUND▼/▲ボタンを押して“DOLBY PL II”を点灯させます。

2 リモコンのSOUNDボタンを押します。

現在選択中のサウンドモードが表示されたらENTERボタンを押します。
(ディスプレイ左右に矢印が表示されます)



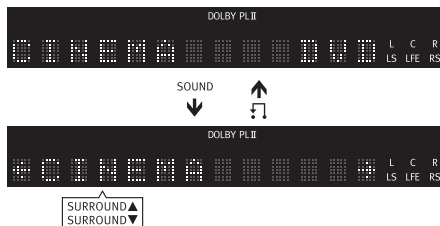
SURROUND▼/▲ボタンを押してモードを変更します。

SURROUND▼/▲ボタンを押すと下記のようにモードが切り替わります。

- CINEMA : シネマモード。映画再生に適した音声に調節します。
- GAME : ゲームモード。パソコンのゲームなどの3次元的なサラウンド効果を楽しむためのモードです。
- MUSIC : ミュージックモード。音楽再生に適した音声に調節します。

3 ENTERボタンを押して終了します。

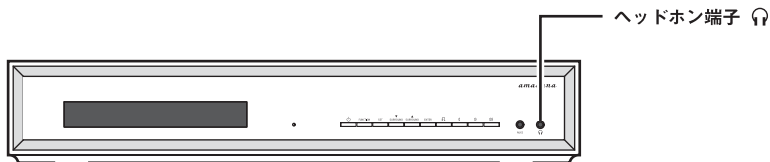
※2ch入力時にスピーカー設定が2chの場合(スピーカーセットアップでスピーカーを削除していない場合)はCINEMAモードに固定となります。



臨場感を楽しむ

ドルビーヘッドホンでの再生のしかた

- 本機はドルビーラバトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発によるヘッドホン再生における立体音響技術であるドルビーヘッドホンモードを搭載しています。
- 本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。
- ドルビーヘッドホンモードは、音場効果によりDH1、DH2、DH3のモードと通常のステレオ再生をするBYPASSの4モードが選択できます。
- ドルビーデジタル、AAC、のマルチチャンネルソースに対応しており、2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定により、シネマとミュージックモードでのドルビーヘッドホン再生が選択できます。



- 1** ヘッドホン端子にヘッドホン(端子)を差し込みます。

※ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカ出力がOFFとなり、スピーカより音は出ません。

- 2** SOUNDボタンを押します。



- 3** 現在選択されているドルビーヘッドホンモードが表示されます。



- 4** SURROUND▼/▲ボタンを押してモードを変更し、ENTERボタンで選択します。

SURROUND▼/▲ボタンを押すと下記のようにモードが切り替わります。

- **DH1** : 小さな部屋の設定。すべての音楽や映画音声に標準的な効果が得られます。
- **DH2** : DH1 と同じ規模の部屋で、DH1 より少し大きく反響します。音楽の再生に、より効果が得られます。
- **DH3** : DH1 ・DH2 よりもさらに大きい部屋の設定。コンサートやライブの音声、映画音声により効果が得られます。
- **BYPASS** : ステレオ再生です。

便利な機能

主音声/副音声の切り換え (AAC信号のみ)

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送は、主音声/副音声を切り替えることができます。

1 SOUNDキーを押してサウンド設定モードにします。

2 SURROUND▼/▲ボタンを押し音声を選びます。

- MAIN : 主音声
- SUB : 副音声
- MAIN / SUB : 主音声+副音声

※モノラルでない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り替えてください。

3 音声を選択後、約6秒で通常画面へ戻ります。

※BSデジタルチューナー、BSデジタルチューナー内蔵テレビなど、接続機器のデジタル音声出力設定を "AAC" 信号出力に設定してください。

※デジタル音声の出力を "PCM" 信号に設定されていると、AACマルチチャンネル音声での再生はできません。

BSデジタルチューナーの音声の設定のしかたは、その機器の取扱説明書をご覧ください。

※BSデジタルチューナーのデジタル音声出力を "AAC" 信号出力に設定しても、番組によってはアナログ音声しか出力されない場合があります。アナログ音声出力も本機に接続することをおすすめします。

ディスプレイの明るさを調節する (DIMMER DISP:ディマーディスプレイ)

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

1 リモコンのDIMR DISPボタンを押します。

次にSURROUND▼/▲ボタンを押しディスプレイの明るさを変更します。



ディマーディスプレイ表示例。
「DISPLAY HIGH」以外の表示は接続環境により異なります。



- DISPLAY HIGH : 明るい。
- DISPLAY LOW : 暗い。
- OFF : 消灯。再度DIMMER DISPLAYボタンを押すとDISPLAY HIGHの明るさになります。

インテリアライトの明るさを調節する (DIMMER LIGHT:ディマーライト)

インテリアライトの明るさを選べます。

1 リモコンのDIMR LIGHTボタンを押します。

次にSURROUND▼/▲ボタンを押しディスプレイの明るさを変更します。



ディマーライト表示例。
「LIGHT HIGH」以外の表示は接続環境により異なります。



- LIGHT HIGH : 明るい。
- LIGHT LOW : 暗い。
- LIGHT OFF : 消灯。再度DIMMER LIGHTボタンを押すとLIGHT HIGHの明るさになります。

便利な機能

タイマーをセットする (SLEEP:スリープ)

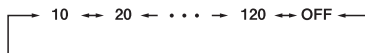
設定したタイマー時間が過ぎると、自動的に電源がオフ(スタンバイ)になります。最長120分まで設定できます。

- 1 リモコンのSLEEPボタンを押します。



- 2 タイマー時間を選択します。

SURROUND▼/▲ボタンを押し、何分後に電源をオフ(スタンバイ)にするかを選びます。10分単位で最長120分まで設定できます。



タイマー時間を表示させたまま約5秒ほど待つと通常画面へ戻り、タイマーが作動し始めます。

※ディスプレイの明るさは自動的にLOWになります。明るさを変更する場合は、DIMMER DISPモードで変更してください。

※タイマー作動中に、リモコンのSLEEPボタンを押すと、残りの時間が確認できます。

※タイマーを解除するには、電源をオフ(スタンバイ)にするか、再度SLEEPモードからOFFを選択します。



スリープ表示例。

「SLEEP」以外の表示は接続環境によりこととなります。

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合は音響モードを“STEREO”にしてください。

※AUTO DECODE(オートデコード)モードでは、音響モードは自動的にSTEREOに切り替わります。

※STEREO以外のモードが選ばれているときは、スピーカーからは音が聞こえません。

故障かな？と思ったら

症 状	原 因	解決方法	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	■ 電源コードの差し込みが不完全である。	■ 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	--
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	■ スピーカーケーブル接続が不完全である。	■ しっかり接続してください。	12
	■ 入力ソースの選択が不適当である。	■ FUNCTIONボタンを押し、正しいソースに切り替えてください。	23
	■ 音量が絞ってある。	■ VOLUMEボタンを押し、音量を上げてください。	14
	■ ミュートがかかっている。	■ ミュートを解除してください。	24
	■ デジタル信号が入力されていない。	■ デジタル信号の入力ソースを正しく選んでください。	23
モニターが映らない。	■ 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	■ 接続が正しいか確認してください。	08・09
	■ モニターTVの入力設定が違う。	■ TVの入力切り替えを映像入力に接続した端子へ設定してください。	--
	■ プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニター(TV)との接続がビデオ端子(黄)またはSビデオ端子になっている。	■ プログレッシブ映像信号はダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレースの設定にしてください。	--
DVDからVCRにダビングできない	■ ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	■ コピーはできません。	--
サブウーファーが鳴らない。	■ サブウーファーの電源が入っていない。	■ 電源を入れてください。	--
	■ サブウーファーの設定が“NONE”になっている。	■ 設定を“ON”にしてください。	20
	■ サブウーファーの出力が接続されていない。	■ 正しく接続してください。	11
	■ サブウーファーの音量レベルが最小になっている。	■ テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。	21
テストトーンが出ない。	■ サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	■ ドルビーサラウンドモードにしてください。	26・27
サラウンドスピーカーから音が出ない。	■ サラウンドモードがステレオになっている。	■ ステレオ以外のモードにしてください。	26・27
リモコンを操作しても正常に動作しない。	■ 電池が消耗している。	■ 新しい電池と交換してください。	18
	■ リモコンの距離が離れ過ぎている。	■ 近づいて操作してください。	18
	■ 本体とリモコンの間に障害物がある。	■ 障害物を取り除いてください。	18
	■ 操作したいボタン以外のボタンを押している。	■ 操作したいボタンを押してください。	16・17
	■ 乾電池の＋、－が正しくセットされていない。	■ 乾電池を正しくセットしてください。	18

仕様

商品名	amadanaサラウンドアンプ	
型名	AA-132	
外形寸法(約mm)	450x82x352(取っ手、つまみ類含まず)	
本体質量	7.7kg	
電源	AC	
定格電圧・周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	152W	
待機消費電力	1W	
その他	対応スピーカー	6Ω～16Ω
	許容周囲温度	0～50℃
	許容相対湿度	～95%(結露なきこと)

オーディオ部

定格出力(20 Hz ～ 20 kHz、THD 0.7%、6 Ω)	35 W + 35 W	
実用最大出力	50 W + 50 W(JEITA、6 Ω)	
最大出力	フロント	35 W + 35 W(1 kHz、THD 0.7%、6 Ω)
	センター	45 W(1 kHz、THD 0.7%、6 Ω)
	サラウンド	35 W + 35 W(1 kHz、THD 0.7%、6 Ω)
実用最大出力	フロント	50 W + 50 W(1 kHz、THD 10%、6 Ω)
	センター	50 W(1 kHz、THD 10%、6 Ω)
	サラウンド	50 W + 50 W(1 kHz、THD 10%、6 Ω)
全高調波歪率	0.15%(1 kHz、30 W、6 Ω) - ダイレクトモード基準	
周波数特性	ダイレクトモード	DVD、PHONO、VCR、TV/AUX1、AUX2 10 Hz ～ 50 kHz、+ 0dB ～ -3 dB
	サラウンドモード	フロント 20～20kHz 0 dB ～ ±3 dB
		センター 500～3kHz 0 dB ～ ±3 dB
		サラウンド 20～20kHz 0 dB ～ ±3 dB
SN比	ダイレクトモード	DVD、PHONO、VCR、TV/AUX1、AUX2 95 dB (JEITA)
	サラウンドモード	DVD、PHONO、VCR、TV/AUX1、AUX2 75 dB (JEITA)
入力端子(感度/インピーダンス)	DVD、PHONO、VCR、TV/AUX1、AUX2 330 mV / 25 kΩ	
出力端子(レベル/インピーダンス)	VCR、TV 330 mV / 1 kΩ	
トーンコントロール特性	BASS ±8 dB(100 Hz)	
	TREBLE ±8 dB(10 kHz)	

デジタル部

対応サンプリング周波数	32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
入力端子	オプティカル(-15 dBm～-21 dBm)/660 nm

ビデオ部

標準映像端子	入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p / 75Ω
コンポーネント映像出力端子	入出力レベル/インピーダンス	Y信号 1 Vp-p
		CB信号 0.5 Vp-p
		CR信号 0.5 Vp-p

フォノイコライザー部

入力感度	2.5 mV	
RIAA偏差	20H z	+19.27 ±3 dB
	20kHz z	−19.62 ±3 dB
S/N比	75 dB (JIS-A、5mV入力時)	
ひずみ率	0.5% (1kHz、3V出力時)	

その他

リモコン	RCAケーブル(0.8m)
音声入力	アナログ5系統、光デジタル3系統
音声出力	アナログ1系統、光デジタル1系統
映像入力	コンボジット3系統、D4端子2系統
映像出力	コンボジット2系統、D4端子1系統
対応フォーマット	ドルビーデジタル、ドルビープロロジックII、ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビーヘッドホン、MPEG-2 AAC
サラウンド	GAME、JAZZ、ARENA、MOVIE
フォノイコライザー	有
前面端子	φ3.5ヘッドホン、φ3.5AUX入力

ご注意

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

アフターサービス

1 保証書の内容のご確認と保存のお願い

必ず「販売店印およびお買い上げ日」をご確認のうえ、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間

3 「amadana」カスタマー登録のお勧め

「amadana」を愛着を持って末永くお使いいただくために、「amadana」カスタマー登録をお勧めしています。
本カスタマー登録の特典や登録方法は別紙の通りです。
商品お買い上げ後1年以内が登録期限です。お早めにご登録ください。

4 修理をお申しつけされるとき

《保証期間中》 製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店にご持参ください。
保証書の記載内容に基づき修理いたします。
《保証期間を経過しているとき》 修理すれば使用できる商品は、ご要望により有料修理いたします。

5 補修用性能部品※の保有期間は、製造打ち切り後6年間です。

ただし、「amadana」カスタマー登録に登録いただくと別規定を適用させていただきます。(詳細は別紙「amadana」カスタマー登録特典をご覧ください。)

※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

6 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。**技術料** は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。**部品代** は、修理に使用した部品および補助材料代です。**出張料** は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。(本機の場合、持ち込み修理となります)

お客様サポートセンター

修理・お取り扱い・消耗品や部品のご購入などのご相談は、お買い上げの販売店もしくは弊社サポートセンターにお問い合わせください。

所在地、電話番号などは変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

お客様サポートセンター フリーダイヤル **0120-161914**

受付時間 10:00～19:00 年中無休 (GW、盆休み、年末年始を除く)

■携帯電話・PHSの方はこちらへ Tel (03)5774-0947

■ファクシミリでのお問い合わせ Fax (03)5467-0431

株式会社 リアル・フリート

製品の「品番・お問い合わせ内容」と、お客様の「お名前・ご住所・電話番号・FAX番号」をご記入のうえ、お問い合わせください。

amadana